

## 愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日時：2020年2月5日（水）

10:00～12:00

場所：愛知県庁本庁舎6階 正庁

### <加藤愛知県副知事挨拶>

愛知県副知事の加藤でございます。地方創生と東三河地域を所管しております。開会に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

本日、座長の後藤先生をはじめ委員の皆様方には、大変お忙しいところを「第3回 愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」にご出席いただき、ありがとうございます。

また、日頃より、愛知県政の推進にご支援、ご協力をいただいておりますことを、この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、この推進会議は、本県の第2期「人口ビジョン」・「総合戦略」の策定に向けて、昨年7月、11月と開催させていただき、今回が3回目、最後の会議となります。

11月7日に開催しました、第2回の会議では、第2期「人口ビジョン」及び、「総合戦略」の骨子について、ご議論をいただきました。

前回の会議では、総合戦略の骨子で掲げた5つの視点や、6つの基本目標といった方向性について、ご同意をいただくとともに、

東京圏への人口流出については、単に引き留めるであるとか、引き戻すといったことではなく、チャレンジする意欲のある若者を引きつけ、還流を促すといったことや、県外の人との結びつきを創る「関係人口」の拡大など、前向きな表現が必要といった意見や、

高齢者や外国人の増加など、人口の数というよりも、中身が変化していく中で、そうした人々を、しごとの面だけではなく、地域の中でどのように支えるか、高齢者の活躍促進や、多文化共生社会の実現の必要性などのご意見を賜りました。

今回の会議では、前回、皆様からいただいた意見を踏まえつつ、第2期の「人口ビジョン」・「総合戦略」の案を提示させていただきます。

詳細は、後ほど、事務局より説明させていただきますが、第2期「人口ビジョン」については、前回、試算としてお示しした、人口の将来展望につきまして、最新の数値をもとに、改めて、推計したものをお示しいたします。

また、第2期「総合戦略」では、第2回の会議でご議論いただいた、骨子をもとに、具体的な施策、数値目標、KPI等を肉付けしたものを提示させていただきます。

東三河担当副知事として、紹介させていただきますと、東三河地域の強みの一つである豊かな自然と、多様性に富んだ地形・景観を生かした「スポーツツーリズム」を、東三河8市町村と連携して推進する取組などを、新たに追加させていただきます。

本日は、特に、この第2期「総合戦略」について、皆様から幅広い意見をお聞きすることで、さらなる施策の充実を図ってまいりたいと考えております。

本日、お集まりの皆様には、第2期の「人口ビジョン」・「総合戦略」の策定に向けたご助言やご提案を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### **【事務局から出席者紹介】**

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

会議の座長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

前回の会議では、委員の皆様から具体的なご意見をいただき、今回の素案に盛り込んでいただいたものと伺っております。本日は、特に施策や数値目標、KPIなど、肉付けを行ったところについて、ご意見をいただければと思います。

また、本日の議論を踏まえまして、さらに、パブリック・コメントも実施すると伺っております。3月には、新たな総合戦略を策定するというので、本日の会議は大変重要な位置付けとなりますので、皆様の積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。本日の議題は、第2期「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の素案について、ということで、事務局から資料の説明をお願いいたします。

### **【事務局から資料説明】**

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問等はございますか。

特に質問がないようですので、まず、有識者の方々からお話を伺っていきたいと思います。

それでは、内田委員から、お願いいたします。

#### **<中京大学 内田俊宏委員>**

まず、「人口ビジョン」ですが、前回会議でもう少し厳しめに見た方がいいのではないかと発言しましたが、今回、最新のデータを反映していただいたことで、

さらに楽観的な数字に変わっています。これはこれとして、私が懸念しているのは、若年女性の首都圏への転出超過が続くことで、未婚率の上昇や晩婚化が進み、最終的には合計特殊出生率の低下に結びつくことです。結果的に、将来の自然増減に影響します。若年女性の転出超過は、まちの活気や魅力の低下にもつながるため、その弊害というか影響を注視していく必要があると思います。

人口推計に関しては、本県の活力を生み出すスタートアップや、チャレンジする若者や女性が重要な役割を担うことになるので、全体の人口動態というより、極端に言えば、10代、20代の対東京の流出入だけを見てもいいと思っています。愛知県の魅力や産業構造を補完できる人材に注目して人口動態を見ていただきたいと思います。

また、総合戦略については、コンテンツとしては上手くまとめていただいて、ほぼ全ての要素を組み込んでいると思います。その上で、概要の1ページ目の「日本一元気で、すべての人が輝く、住みやすい愛知」という表現の中で、「元氣」と「すべての人が輝く」という部分では、具体的な施策展開で、特に若者や女性、外国人やシニア層を意識していただきたいと思います。

「住みやすい愛知」の部分では、安定した大企業で働いている家族を持つ人たちのほか、外国人やもともと地元に住んでいた人たちにとっては、安心して住みやすいという方向性を強調しても良いと思います。一方で、スタートアップを志向する県内外の若者や女性に焦点を当てると、安心だけでは満足できず、同時に刺激やチャンスが共存する愛知という姿が重要になってくると思います。

「重視すべき視点」についても、さまざまな視点のコンテンツが揃っていると思いますが、施策として優先すべきところはもう少し精査する必要があると思います。例えば、「新たな魅力の創造と発信」において、従来の愛知県の安定性や堅実性といった強みは、逆に、若者や女性、外国人に選択されないというリスクになり得ます。

最も重要だと思うのが「魅力づくり」で、東京に流出するような若者や女性、外国人が、仮に起業に失敗しても再度チャレンジできるような機運の醸成が不可欠で、それらを含めた魅力づくりや情報発信があって初めて、人の流れづくりがあり、仕事が生まれてくるのだと思います。加えて、そこで働く人たちにとって、結婚・出産・子育てがしやすい環境づくりとか、暮らしの安心を支える環境づくりにも派生していくと思います。

そういった因果関係の流れを考えると、「魅力づくり」が本県にとって最大の重点分野だと思いますので、優先順位やウエイトを意識していただきたいと思います。以上です。

### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

「魅力づくり」に重点を置いて、お話しいただきました。続いて、白上委員お願いします。

### ＜NPO法人アスクネット 白上昌子委員＞

膨大な内容を、具体的にまとめていただき、ありがとうございます。総合戦略の37、38ページで、前回の意見を反映していただいています。38ページの上から4行目の「子ども・若者の社会性や自主性を培う機会づくり」については、一歩踏み込んで、「主体性を培う機会づくり」に修正していただけたらと提案します。これに関しましては、新しいナショナルカリキュラムが打ち出され、幼稚園から高校まで、主体的で対話的な深い学びという方針が、一貫して出されています。学校教育の場で、決められたことに対して、率先して行うことが「自主性」で、これに対し、決められたことではないけれど、自分の頭で考えて動いていくことが「主体的」という違いです。目の前の課題に対して、どのように対処すればいいのか、おそらく社会においても同じことだと思いますが、これからの5年、それからナショナルカリキュラムが10年続いていく意味でも、「主体性」に変えていただければという提案です。特に、この地域にとっては、とても重要なことだと思います。先程、内田委員からもご指摘がありましたが、前回の資料でもありましたように、資料1-2「愛知県人口ビジョン」の22ページの大学生の意識調査で、チャレンジしたい若者たちが東京に出て行き、一方で、地元、親元から離れたくないと思う若者が残るということが、この結果から見えてきます。地元でこういうことがやりたいとか、こういう暮らし方がしたいと自分の意思で考えていく力を養っていかないといけないと思います。おそらく私たちの世代よりも、自分の意志で考えていかななくてはいけない機会が増えてくると思います。文部科学省の資料でも、予測困難な時代に突入するというところで、考え方を変えていこうと動いているところです。企業も兼業を認めていき、先程の人口統計でもありましたように、女性がどれだけ就業、起業するかということが、様々なことに関わってきますので、「自主性」と「主体性」の一文字の違いではありますが、どのような考えで捉えていくかという点で大事になってくると思います。

もう1点、総合戦略の48ページの外国人の記載か所で、労働者としてだけでなく、生活者、それから住民として、どのように受入れていくのかという観点が必要に重要なと思います。そういう意味で、昨今の災害は、全ての人たちに関わってくることで、例えば防災を糸口にしながら、労働者だけでなく、生活者、それから住民として、地域のコミュニティにつないでいく視点が非常に重要になると思います。これは子どもの貧困、社会福祉、子育てなど、全部につな

がってくると思います。私たちの生活は様々なサービスによって便利になっていますが、その一方でお金を使わずに、つながりをつくる場所が極端に減ってきています。高齢者や障害者、子どもの福祉の観点でも、コミュニティというくくりでみれば、どこかで重なり合っています。様々な切り口で横串を刺していくことで、そこから生まれる地域でのゆるやかな交流が緊急時のときに重要な働きとなって現れるのではないかと思います。市町村の管轄の場合もあると思いますが、横の連携の促しを県の方でも行っていくことが重要であると思います。

### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

やはり、自分の頭で考える人を育てなければならないことは大事です。白上委員からお話のありましたとおり、この地域に残る女性、若者の数を増やすという意味において、消極的な理由でこの地域に残るのではなく、この地域に住み続けて、このような仕事がしたいというような積極的な人たちを増やしていくことが、非常に大事であると思います。この資料が、積極的な解釈になるようもう一度確認していただきたいと思います。

それでは戸田委員お願いします。

### ＜愛知大学 戸田敏行委員＞

全体として、大変よくまとまっているという印象をもちました。特に、策定期間が2020年から2024年であるので、ポスト東京オリンピック、パラリンピックの中、国全体が目標をどうするかという時期でもあります。

そこで、本県としては、リニア中央新幹線によるスーパーメガリージョン誕生が2027年であるので、計画期間内ではないですが、次の目標として、どこかに出てもよいと思います。この件は、東京ではほとんど言わないので、愛知が言わなければどこも言わないと思います。「総合戦略の推進に当たって」の広域のところかもしれませんが、東京一極集中にストップをかけるという意味において、スーパーメガリージョンという言葉を入れるべきかと思いました。

もう1つは、愛知の強み、愛知の深みを出すということで、その一点目は「社会実装」という言葉です。これは重視すべき視点の1や、「基本目標」にもあります。シューマッハという経済学者が、かつて「人の顔が見える技術」ということを言ったのですが、工学技術のみではなく、社会をつくっていくことと合わせた技術。今日こうした視点が不可欠であり、これをつくることができる場所は限られていると思います。以前、京都で、愛知県の自動車産業の話をしたところ、京都のある出版編集者は、世界企業の肩を持つのかと怒り出しましたが、自動車産業は、本県の地場産業であって、京都の西陣織と変わらないと言って、納得してくれたことがありました。近未来技術の社会実装と言うのと違い、近未来技術

をつくる社会実装と言うことが、モノづくりの実態を持つ本県にとって、重要に思います。この社会実装というのは、とても大事な言葉だと思います。

二点目は、人への着目と言うことで、これは46ページの「シニア」というのが気になっております。今回は「希望や生きがいをもって」と書かれていて、65歳以上は、労働力としても大きなボリュームがあって、人口としても大きな潜在性を持っている。そこが希望を持つことが、未来の若者への希望にもなるという気がします。今日の新聞に、政府政策として、60、70歳就業の中に、起業及び社会貢献事業が入ったと出ていますけど、本計画には具体的な目標数も出ていますので、そこをどう扱うかは、非常に重点的なプロジェクトだという気がします。46ページに「社会人の学び直し」と書かれてありますが、この辺りも一体的に考えていくことが必要だと思いました。

三点目が計画の構造です。一つひとつのプロジェクトは、非常に精緻考えられると思いますが、政策として効果を上げるには、事業の相互関連、相乗性が非常に大きいと思います。一つのアイデアが、他の事業とどのように連動しているのかというのは、分かりにくいところがあります。計画に記載していただきたいということではありませんが、どこがどうつながるかというつながり関係が、どこかで分かるようになると、庁内においても、事業を進める上においても、機動性が高まると考えております。

最後に、東三河関連を多く記載していただきました。加藤副知事のご尽力だとも思いますが、これを進めていくには、市町村の参画が不可欠です。どういう形でこれが市町村にフィードバックされるかというのは非常に大事なことだと思います。愛知県の中では、東三河は人口減少ですが、全国的に見ると、輝いているという点においては、間違いないことでもありますので、県と市町村の連携をどのように引き出していけるか、そのためのフィードバックは非常に大事なことだと思いました。以上です。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。

ポスト東京オリンピック、リニア開業に向けて、どういう方向で進んで行くかというのは、改めて大事なことだと思い伺っておりました。

ありがとうございます。

それでは次に、産業界の皆様から、ご意見伺いたいと思います。最初に、大竹委員に、お願いします。

#### **<愛知県商工会議所連合会 大竹正芳委員>**

名古屋商工会議所の大竹です。よろしくお願いします。

人口ビジョンと総合戦略の素案ということで、とりまとめていただき、またご説明いただきありがとうございました。

前回申し上げました内容につきまして、記載いただいております、感謝申し上げます。ほぼ網羅されつつあると思いますが、数点お話しさせていただきますと思います。

まず資料2-2について、17・18ページの「中小・小規模企業の振興」ということで、最新の状況を申し上げますと、事業承継が大事なテーマになってきております。先日も、国の方から委託を受けて、事業引継センターを運営しておりますが、県・市、信用保証協会との覚書を締結して、これから事業承継をさらに支援していくということで、第三者事業承継の本格化が、今、話題となっております。こういったことも、最新の話題としていただけるとありがたいです。

次に、観光について、資料2-1の「視点3」の「新たな魅力の創造と発信」で、新しい魅力を作り上げることも大事だと思いますが、やはり既存の観光資源の掘り起こし、発掘が大事なかなと思います。資料2-2の27ページでは、「愛知ならではの観光資源の発掘・磨き上げ」と記載がありますが、新しいものをつくり上げるだけではなく、既存のものを点検して、発掘、磨き上げをすることで、よりいいものになると思います。ストーリー化して、発信することが観光においては大事かと思えます。それから、観光の関係で会議所のことをご紹介いたしますと、ビジネスで当地に来られる方が非常に多いのですが、空いた時間にちょっと見て帰るときに、どこに行ったらいいかよく分からないという声が強いかたと認識しております。来年度に、ビジネスとレジャーの言葉を組み合わせた「ブレジャープロジェクト」という事業を進めていきたいと思っております。少し空いた時間に、愛知・名古屋の観光施設を回って、食も含めて、楽しんでお帰りいただく取組をしたいと思えます。それから、夜の賑わいについて、今、人手不足でお店の方の営業も難しい状況ですが、愛知・岐阜・三重のラリーのスポーツイベントを開催しますので、国内外からイベントに来られる人向けに、夜の賑わい創出にも取り組んでいきたいと思えますので、ご紹介させていただきます。

それから、見落とししていたら恐縮ですが、「ダイバーシティ」という言葉ですが、人材という言葉が資料にあります、やはり多様な人々が活躍する社会が大事だと思っておりますので、外国人や障害者など様々な方がいらっしゃいますので、多様性というか、様々な方々を受け入れる、あるいは寛容な経済社会の愛知を目指していくことが大事かと思えます。

最後、強靱化の関係です。資料2-2のところでは、確か人材のところ記載いただいておりますが、企業的心声を聞くと、非常に南海トラフ地震や、台風・水害など頻発している状況がありまして、心配されることが多いと思えます。そういう中で、担い手ということだけではなくて、49ページにありますように、ハー

ドとソフトの様々な視点での地域強靱化を協力を推進いただかないと、安心して仕事・生活ができないこともありますので、もう少し強調いただくことも大事であると思います。ご検討をお願いいたします。以上です。

#### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

ありがとうございました。名古屋に来たときに、短い時間でも楽しめる情報があると、もっと魅力につながるかと思います。

続きまして、岩附委員にお願いします。

#### ＜（一社）中部経済連合会 岩附一人委員＞

中部経済連合会の岩附です。取りまとめいただき、ありがとうございました。前回、発言いたしました東京圏への流出などの表現を工夫していただき、感謝いたします。その上で、いくつかご意見させていただきます。

まず、一点目ですが、大竹委員からお話しいただいた防災に関する取組は、やはり重要であると思います。自然災害や風水害を意識して記載いただいた上で、ハードも含めた強靱化の検討を深めていただくことを是非ともお願いしたいです。

次に総合戦略の資料2-1ですが、表面の視点の中には「女性等の多くの県民の希望に応じた労働への参加が可能となるような誰もが活躍できる場」という表現があります。一方、具体的な取組の中では女性への取組に関する記載が足りないように思え、若い女性の働く場をつくるということを、どこかにはっきり記載していただけると、県の取組がしっかり伝わるかと思います。

二点目は資料2-2の15ページ、スタートアップ関連の記載についてです。「ステーションAi」、「Aichi-Startup 戦略」等の取組は、引き続き愛知県主体で進めていただきたいと考えますが、資料に記載していただくか否かは別にして、現在、愛知県にリードしていただき、名古屋市、名古屋大学、中経連が参加して、内閣府のスタートアップ・エコシステム拠点都市に関する取組を行っています。東京一極集中への対策として考えても、グローバル拠点都市に愛知県、名古屋市が選ばれるということは、非常に重要なことだと思っており、選定期期と本ビジョンの発表時期の兼ね合い等難しいタイミングかもしれませんが、引き続き本取組の重要性を意識していただければと思います。

また、イノベーションは、アイデアや技術を試す場と、社会実装の支援が大事だと思います。今回、自動車関係は、実証実験等をしっかりとやってくと記載されておりますが、それ以外で、スタートアップや研究室などでやろうとしている実証実験等を支援することや、県の立場では難しい面もあるかと思いますが、規制緩和、税制優遇などについても幅広く支援していくとの表現を入れていただく



と、なお、良いものになると思います。

最後に、これはお願いも兼ねてとなりますが、スーパーメガリージョンに関して近隣県との連携を強化すると記載をいただいておりますが、これは大切な取組だと思っております。是非、実行段階で詳細の検討お願いできればと思っております。以上となります。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。

この地域がスーパーメガリージョンの拠点、グローバルな拠点として認識されるように、ご努力いただいているということですのでよろしく申し上げます。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。それでは、JAあいち中央会の村上委員、よろしく申し上げます。

#### **<愛知県農業協同組合中央会 村上光男委員>**

愛知県農業協同組合中央会の村上でございます。

農林水産業の関係につきましては、資料2-2に記載がございます。農林水産業で生産額を上げていくためには、二つ対策があると思っております。一つは一人当たりの生産性向上、もう一つは人の確保でございます。本日は人の確保について、二点話をさせていただきたいと思っております。

一点目は、先ほどから話がありましたが、事業承継への支援です。5年前の農林業センサスですが、基幹的農業従事者の平均年齢は67歳で、5年前ですので、単純に5歳足すと、今は72歳になります。中小企業の経営者の平均引退年齢が71歳と言われており、事業承継対策は急務ということがございます。今回の総合戦略の中で、中小・小規模企業の振興で、18ページに事業承継支援が取り上げられておりますが、農林水産業においてはこの記述がありません。農林水産業でも同様に、事業承継に対する支援を進めていく必要があると思っております。特に農家承継者への支援、事業承継支援を行うことが重要かと思っております。

二点目でございます。24ページですが、女性の新規就農対策について記載をいただきまして、ありがとうございます。具体策について、今後戦略を実践する際に進めていただければと思っております。新規参入希望者については、このページにおいては例示として、女性のほかに定年退職者や企業が挙げられていますが、それ以外でも、県内外の転職者も考えられると思っております。転職者の方が困ることは三つあり、具体的には農地、資金、農業技術です。農地と資金については、今回の総合戦略の中で記載がありますが、農業技術については、今回の総合戦略の中

では記載がないため、リカレント教育という記載があっても良いのかと感じました。以上でございます。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。農業の分野においても事業承継は非常に重要であるという御指摘でございました。それでは、次に市町村の代表の方から御意見をいただきたいと思っております。本日は宇佐見委員が御欠席ということでございまして、市長会事務局の加藤委員にお願いしたいと思っております。

#### **<愛知県市長会事務局 加藤正人委員>**

愛知県市長会の加藤でございます。戦略につきましては、しっかりとご検討いただいております。後は、戦略を着実に推進していただくということに尽きるかと思っております。その上で2点、気付いた点を申し上げます。

一点目は、人口動向を地域的に見ると、一番厳しいのは東三河、次いで海部地域ではないかと思っております。このうち東三河については、東三河県庁があり、東三河広域連合もありまして、戸田さんを中心に産学官の連携もしっかりと進められています。一方で、海部地域についてはそういった連携の核がないものと認識しています。そうした中で、来年度から、尾張県民事務所から海部事務所を独立させるという情報が発表されております。これは、海部地域は一つの地域単位として重要であるということを変更して示されたということかと思っております。核がないという中で、ぜひ県で、例えば東三河振興ビジョンのような、海部地域における振興ビジョンを検討していただいて、それをきっかけに広域の連携を進めていくような仕組みを、なかなか難しいとは思いますが、考えていただければ有難いと思っております。

それから二点目は、全国的な人口動向を見ると、やはり20年後、30年後を見ると、今の自治体の形がそのまま続いていくとは、なかなか想像できないなと思っております。今、国の地方制度調査会の方で議論が進められておりますが、その中では、小規模市町村について県が補完する、垂直補完を強めていこうという動きが進んでいく可能性が高いかと思っております。そうすると県と市町村の役割分担が曖昧になってくると思っております。そうした時に、一つには、二層制といった話が出てきて、国と地方、地方は一本でという議論が進んでいく可能性があると思っております。もう一つの流れとしては、道州制と思っております。東京一極集中がなかなかストップしない中で、このまま行けば「東京栄えて日本滅びる」ということになりかねないと思っております。大きな単位で、地域が自立し、決定して事業を進めるような仕組み、今は道州制の議論は停滞していますが、10年くらい経ったときに、二層制か道州制かという議論が進んでいる可能性もあると思っております。その時に備え

て、道州制についてはぜひ議論を継続していただきたいと思っています。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。2000年になったころは、市町村合併の議論がございましたけれども、ポストオリンピックになると、またそういった議論も出てくるかも知れませんが、議論を継続していただきたいという御意見でした。ありがとうございました。

それでは、次に国の地方機関の方々から御意見を伺いたいと思います。それでは、最初に加藤委員からよろしく願いいたします。

#### **<東海総合通信局 加藤明彦委員>**

東海総合通信局の加藤でございます。まず、総合戦略のいろいろなところに、AIやIoT、ICTの活用を記載していただいて、ありがとうございます。AIやIoTは、今後、ますます進化して、より使いやすくなり、値段も安くなっていくと思います。5Gはこの春から、本格的なサービスが開始され、順次、エリアが拡大していきます。この5Gをうまく利活用することによって、地域活性化が図られることが期待されています。

特に、工場の中で利用する、「スマート・ファクトリー」という形がありますが、愛知県は製造業が盛んであるということで、製造業の生産性の向上にも期待しているところです。

ただし、ICT等の情報通信技術は、あくまで手段ということで、導入すればうまくいくということではなく、どのような目的を持って、導入していくのかということを、よく考えていかなければいけないと思います。

今後、さまざまな技術が生み出され、千差万別であると思いますが、よく吟味して、地方創生の目的達成の手段として、活用していただくことを期待しています。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。5Gという新しい技術が導入されても、先ほど他の委員から意見のあった、若い世代や女性の活躍促進など、どういったところに活用するかということが大事であると思われました。

続いて、愛知労働局の奥村委員にお願いします。

#### **<愛知労働局 奥村孝治委員>**

愛知労働局の奥村でございます。前回の骨子から、加えていただいた項目について、少し修正をお願いしたいと思います。

総合戦略の本冊の 42 ページです。前回は愛知県と愛知労働局で雇用対策協定を締結していることはお話しさせていただいておりますが、(3)の女性の活躍促進について、「女性が働きやすい環境づくりの推進」で、女性活躍推進法の改正について愛知県と愛知労働局が協力して周知を図ることとなっているので、「企業における」の記載の前に「改正女性活躍推進法の周知を進めるとともに、」という文言を追加していただきたいと思っております。

また、「テレワークの導入促進」の位置を後述に移していただきたいと思っております。もう一つ、43 ページの「ワーク・ライフ・バランスの推進」については、「愛知労働局が中心となり～と連携して」のか所を、「愛知労働局と連携して、企業の「働き方改革」を推進するため」と修正していただきたいと思っております。

#### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

2点について、ご指摘をいただきました。一点目は女性の管理職活用などを前に持ってきた方がよいという意図で、二点目は、テレワークは女性だけのことではないという意図ではないかと思っておりますので、事務局はご対応のほど、お願いします。

続いて、宇木委員をお願いします。

#### ＜東海農政局 宇木俊晴委員＞

東海農政局の宇木でございます。今回、お示しいただきました素案につきまして、重視すべき視点や、それを踏まえた基本目標と施策に、輸出拡大やスマート農業、6次産業化など、農林水産業関連を盛り込んでいただきまして、ありがとうございました。

前回、追記の検討をお願いしました、棚田地域の振興についても、記載いただいているのを確認しました。

意見ではありませんが、前回、紹介しました食料・農業・農村基本計画の見直しについて、今回も触れたいと思っております。基本計画の見直しにあたっては、現状や課題を整理していますが、その中で、担い手の育成・確保や経営の継承は一つの大きなテーマとなっております。村上委員からのご意見にもありましたが、都市農業も重要ですが、特に中山間地域は、全国の農業生産の4割以上を占めています。その中山間地域の人口は、約30年後には、半減すると推計されており、それに合わせて農業従事者も激減することが想定されています。このままでは、農業生産ができなくなるという危機感を持っています。このような状況の中で、1月29日に、食料・農業・農村政策審議会の企画部会が開催され、「事業の継承を重視し、多様な経営体の育成・確保に努める」という考え方が示されたところです。愛知県の総合戦略にも位置付けがありますが、この多様な経営体・人材の育

成について、農林水産省としても、関係機関と連携して、しっかりと進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

ありがとうございました。先ほどのお話にもありましたが、愛知県は農林水産業も非常に重要な産業でありますので、30年後を見据えて、今から手を打っていくというご意見でした。

続いて、瀬賀委員にお願いします。

### ＜中部経済産業局 瀬賀和也委員＞

中部経済産業局の瀬賀でございます。地方創生コンシェルジュの愛知県担当として、参加させていただいております。当局では、自治体とのパートナーシップ強化ということで、地域産業の振興政策を推進しております。直近では、蒲郡市のワークショップに参加して、蒲郡市の政策立案にも協力させていただいております。

1回目、2回目は、「人の流れづくり」を中心にお話させていただきましたが、今回は戦略を実行していくという視点で、主に「しごとづくり」の点でお話させていただきます。

重視すべき視点の中では、「時代の流れを力にした産業革新・集積」ということで、「CASE」など、自動運転についての記載があります。新たなモビリティサービスについては、経済産業局では、「スマートモビリティチャレンジ」というプログラムを全国で展開しております。これは、地域と企業との連携を促すプロジェクトであり、当地においても様々な取組を行っております。ヒト・モノ・カネ、そして企業に対する求心力を向上するというところで、この愛知が中心となって取り組んでいただければと思います。

それから、スタートアップや女性の活躍について、中経連の岩附委員からもお話がありました。「ステーションA i」を中心に、名古屋でも活動拠点の整備が加速されています。

一番重要なのは、新たな技術の担い手であるベンチャー、スタートアップと、地域の企業とが、いかに協業していくかという視点であると思います。そうしたオープンイノベーションに取り組もうとする地域企業が、協業意識を共有していくことが非常に重要になります。「ステーションA i」を含めて、当地のベンチャー、スタートアップの支援を、各支援機関が、ワンボイスで発信していくことが、重要ではないかと思えます。経済産業局では、そうしたムーブメントを盛り上げる活動を「TOP STREAM」と呼んでおりまして、愛知県とも協力して、進めていきたいと考えております。

また、女性の活躍という視点では、当地域の次代の女性リーダーの候補者を養成する講座を開催しており、リーダーとして必要な知見を身につける取組や、人的ネットワークを構築し、創業を促していくことで、当地域のダイバーシティを推進していくことを考えております。いずれにしても、総合戦略は、網羅的に、十分に書き込まれていると考えております。特段、細かなところにコメントはありませんが、産業施策の推進という視点で、愛知県と協力して、実施させていただきたいと思っております。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。地方創生の実現に向けた試みをいろいろとお話いただきました。

それでは、次に富田委員にお願いします。

#### **<中部地方整備局 富田直樹委員>**

中部地方整備局広域計画課長の富田でございます。私からは、2点ほど、述べさせていただきます。

まず、資料2-2の総合戦略（案）の48ページ、（4）地域防災の担い手確保ですが、暮らしの安心を支えるということになりますと、防災・減災対策が必要不可欠であると思っております。先般の会議でも申し上げたとおり、昨年の台風19号では、全国各地で大変な被害がありました。愛知県には、濃尾平野があり、わが国最大の海拔ゼロメートル地帯が広がっております。高潮・津波・洪水・内水面氾濫の危険性が非常に高い地域であります。仮に、名古屋市を流れる庄内川が氾濫した場合、その被害範囲が広範囲に及び、浸水被害が長期にわたることが想定されております。また、南海トラフ地震の発生が切迫する中、巨大地震、津波災害が発生した際の対応が、暮らしの安全・安心を支える取組になると思っております。先ほど、説明のありましたスタートアップを始めとした事業ができなくなってしまうという事態が生じることも考えられます。地域防災の担い手確保ということも、重要な視点であると思っておりますが、防災減災対策の総合的な推進を図ることが、必要不可欠であると思っております。激甚な災害が発生した場合の被害を最小化させるため、自然災害について、想定外とすることなく、減災を基本としてありとあらゆる対策に取組、地域防災力を一層高めていくことで、安全・安心な社会を構築していくべきであると思っております。そういった意味で、防災リーダーの育成など、地域防災の担い手の確保といったことだけではなく、防災減災の総合的な対策を図るなどの趣旨を加えたほうがよいと思っております。加えて、KPIについても、防災リーダーの育成や学生消防団員数だけでなく、南海トラフ巨大地震等の自然災害に備えた防災対策の着実な実施ということで、県民参画の防災訓練の

回数や、住宅の耐震化率、河川・海岸など社会資本の整備率など、県民の安全・安心を支える指標を加えていただいた方がよいと思います。

また、意見ではございませんが、資料2-2の16ページに、「愛知県官民データ活用推進計画」の策定とあります。国土交通省においても、国土交通省が保有するデータを民間等のデータを連係して、フィジカル空間の事象をサイバー空間において最適化する「デジタルツイン」によって、業務の効率化やスマートシティ等の施策の効率化、施策の高度化を産学官連携により、実現することを目指しております。また、国土交通省では、データプラットフォームと愛知県の官民データとの連携によりまして、産学官連携によるイノベーションはもちろん、スマートシティなどの施策の高度化を推進するべきものと考えております。データプラットフォームを活用したスマートシティの実現は、都市や地域の機能やサービスを効率化し、快適性や利便性を高め、新たな価値を創出することが、期待されており、総合戦略においても、多岐にわたる重要な取組になると考えております。

最後になりますが、基本目標3の「人の流れづくり」の36ページになりますが、人の流れを支える社会基盤整備について、名古屋駅の乗り入れ利便性の向上や、広域幹線道路の整備が非常に重要であります。KPIに、名古屋環状2号線、名古屋西JCT～飛島JCT（仮称）の、2020年度供用開始について、盛り込んでいただき、ありがとうございます。私からは以上です。

#### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

富田委員からは、KPIについても、お話を伺いました。36ページの防災の項目は、KPIの追加をご検討いただきたいと思います。また、記載の追加もご検討をいただきたいと思います。ビッグデータの扱いもこれから重要なことになると思いますので、ご確認をお願いします。

それでは、続いて、上井委員をお願いします。

#### ＜中部運輸局愛知運輸支局 上井久仁彦委員＞

中部運輸局の上井でございます。私からは、特段、資料の修正等はありません。

資料2-2の27ページになります。先ほど、大竹委員から、既存の観光資源の磨き上げが重要であるというお話がありまして、私も、同感です。この点は、是非、推進していただきたいと思います。（2）の最後に、観光施設や宿泊施設のバリアフリー化の推進など、ユニバーサル・ツーリズムの取組を推進するところがあります。少し勘違いをされやすいことですが、「バリアフリー化＝ユニバーサル・ツーリズム」ということではなく、バリアがあっても、そのバリ

アを乗り越える方法を考えるとといったことや、どのようなバリアがあるのかという情報を発信することも重要なこととなります。このユニバーサル・ツーリズムは非常に奥の深い取組となりますので、実施に当たっては、慎重に進めていただきたいと思えます。

また、28 ページについて、前回、指摘させていただきましたが、情報発信と環境整備を分けて記載していただきまして、ありがとうございます。受入環境整備については、この会議では毎回、お話をさせていただいておりますとおり、非常に重要なことでもあります。これまでの受入環境整備の状況を見ますと、東京や大阪は非常に整備のスピードが速いです。是非とも、取組を重視していただければと思えます。

一つ質問ですが、ここにあるK P Iの中で、「多言語コールセンターの登録事業者数」とありますが、このK P Iの考え方について、後ほど、事務局からご説明をいただければと思えます。

それから、30 ページのラリー選手権について、非常に大きな大会となります。私は愛知県内の各市町村が行う公共交通会議にも委員として参画させていただいておりますが、観光行事やイベントを行うと、渋滞の発生が大きな問題となります。このラリー選手権の開催時期というのは、おそらく紅葉の時期と重なるかと思えますので、渋滞対策についても、関係者一体となった交通規制なども併せて取組を進めていただけるようお願いしたいと思えます。

また、51 ページのところで、東三河地域の取組について、熱い思いを感じております。公共交通に関して、東三河地域では、国と県とで、補助金を出して、バス路線の維持を図っているところです。この補助の要件の中に、あまり人が乗らないと、補助の要件が外れてしまうということがありまして、やや懸念される路線があります。こうしたことから、観光振興を進めるに当たっては、2次交通の活用ということも、お願いできればと思えます。私からは以上となります。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございます。ご質問につきましては、後ほどまとめてということでもよろしいでしょうか。

それでは、続きまして、愛知学長懇話会事務局の、本日は代理出席で水谷委員にお願いします。

#### **<愛知学長懇話会 水谷聡委員（代理出席）>**

まず、本日は愛知学長懇話会事務局、名古屋大学の武内が本日出席できず申し訳ございません。名古屋大学総務課の水谷と申します。前回、私が発言しましたSDGsについて、意見を尊重していただきまして、簡潔に、また、上手くまと



めていただきまして、感謝申し上げます。教育機関である愛知学長懇話会としても、本日の資料については問題ないと考えております。

先々週の金曜日、1月24日の金曜日に、愛知県の50大学の学長と、愛知県の  
大村知事、名古屋市の河村市長とで懇談をしたところでございます。その懇談の  
場で、本資料にもございます、SDGs未来都市に選定されたことが取り上げら  
れまして、より一層、大学との連携を推進してまいりたいと思います。また、「あ  
いちサイエンスフェスティバル」など、大学が持っている力を活用していこうと  
確認し合ったところでございます。若年層の転出に歯止めをかけるためにも、S  
DGsの理念を念頭に、次代を担う若者、留学生を中心に、教育現場であります  
大学としても、魅力をより一層発信していく所存でございます。

また、本日は、防災について、大竹委員、岩附委員、富田委員からご発言があ  
りました。私事ですが、防災のことを取り上げていただきますことを非常に嬉し  
く思います。私は、この資料にもありますが「あいち・なごや強靱化共創センタ  
ー」で働かせていただいている一員でございます。名古屋大学としましても、こ  
うした防災の担い手を増やしていこうと考えているところで、私自身、身の引き  
締まる思いで聞いておりました。簡単ではありますが、私からは以上でございま  
す。

#### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

ありがとうございました。それでは、次に金融機関の代表の方からというこ  
とで、銀行協会の中野委員、よろしく願いいたします。

#### ＜名古屋銀行協会 中野典彦委員＞

名古屋銀行協会の中野でございます。第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦  
略」について御説明いただきまして、ありがとうございました。また、総合戦略  
について取りまとめていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。総合戦略  
の「しごとづくり」の「(3) 中小・小規模企業の振興」の「①販路開拓など新  
事業展開等への支援」、それから「②事業承継への支援」につきまして、発言さ  
せていただきたいと思っております。

「しごとづくり」の基本目標の冒頭に、「産業構造が大きな変革期を迎える中  
で、時代の流れを力に変え競争力を高めていく」といった趣旨のことが書かれて  
おります。自動車産業については、100年に一度の変革期と言われる中で、人や  
お金など、豊富な経営資源を有するリーディングカンパニーにあって、モビリテ  
ィカンパニーのリーダーとして活躍をしていくと思っておりますが、中小企業を含め  
て、全ての企業が次のステージに移行できるというわけではないと思っております。  
産業構造が進展する中で、中小企業がどうなっていくのかということをよく考え

る必要があります。EVの普及が進んでいけば、内燃機関を担当している下請け企業は少なからず事業を縮小していかなくてはならず、人員削減や廃業につながっていく可能性もあると思います。これまで中小企業は幾多の試練を乗り越えてきたと思いますが、100年に一度と言われる今回の試練は、これまでとは影響が大きく違ってくるのではないかと思います。こうした中で、「販路開拓など新事業展開等への支援」で書かれていますように、新規分野への進出意向のある自動車部品メーカーを支援するといった点が盛り込まれていますが、非常に重要な施策であると思います。

また、「②事業承継への支援」について、事業承継と言うと、代替わりを迎えたオーナー経営者の後継者選びのようなイメージで捉えられているところもあるかもしれませんが、こうした産業構造の大きな転換期を迎える中にあることは、多くの中小・小規模企業の方々が事業の継続のあり方について問題意識を高めていると思います。事業転換や、M&Aの活用など、難しい判断を迫られている経営者も少なくないと思います。そうした経営者の事業承継に向けた取組を支援していければと思っております。愛知県の経済を下支えしている中小・小規模企業を、どこまで支援していけるかというところで、引き続き、目配りしていかなければならないと思います。また、金融機関として中小企業の支えとなっていていかなくてはならないと思っております。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。それでは、最後に、酒向委員にお願いいたします。

#### **<日本労働組合総連合会愛知県連合会 酒向勇平委員>**

連合愛知の酒向です。よろしくお願いいたします。私から1点、発言させていただければと思います。

「まち・ひと・しごと総合戦略」の45のページに記載されておりますが、「地域包括ケアシステムの構築」で、これから2025年問題ということ、超高齢化社会となっていくところではあります。記載にあるとおり、地域包括ケアシステムの構築は間違いなく必要だと認識しております。②に記載がありますとおり、地域医療の確保で、医師、あるいは看護職員の確保を進めるということ、これも間違いなく必要なことであると思いますが、介護職員、いわゆる介護関連の職員の確保という点の記載がないかと思っておりますので、こちらの方もしっかりと対策を進めていただきたいと思いますと思っております。

47ページの下の方に、外国人の関係で、「介護現場への定着を促進するための支援」について記載がございますがおそらく外国人だけで対応することは難しいかと思っております。介護職員の確保がないと、ケアシステムの構築も不可能だと感

じておりますので、ここに文章で記載していただきたいという意味ではありませんし、県として課題認識をお持ちであるとは思いますが、介護職員の確保という点も念頭に置いていただきながら、対策を進めていただきたいと考えております。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。介護、保育、看護などのニーズは高まっているにも関わらず、人材は不足しているということで、非常に厳しくなっています。人口構造の変化の中でも必要となってくると思いますし、女性の活躍の中で、そういうものも必要となってくると思います。具体的な施策の中で、そういった点についても取り組んでいただけたらと思います。

ここで一通り皆様から御意見をいただきました。ありがとうございました。本日ご欠席の宇佐見委員の方からも、別紙のとおり意見の提出がありましたので紹介させていただきます。

国の機関の委員から文言の修正や、K P Iについての御意見がありましたが、今の段階で答えられる範囲で結構ですので、事務局の方から御説明をお願いいたします。

#### **<事務局>**

上井委員からご質問のありました、資料2-2の28ページの「多言語コールセンターの登録事業者数」の考え方についてご説明します。本県では、本年度から事業者向けの多言語コールセンターを開設しておりまして、こちらの方のサービスに登録した事業者の数をK P Iとして設定したものでございます。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

上井委員はよろしいでしょうか。

#### **<中部運輸局 上井久仁彦委員>**

事業者というのは、県内の観光に関わる事業者ということでしょうか。

#### **<事務局>**

観光に限られるわけではなく、観光を含めて外国人と接する機会のある事業者ということです。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。他にはよろしかったでしょうか。

それではまだ若干時間がありますので、もし皆さんの方から、ご発言があれば、挙手をお願いします。

#### **<中京大学 内田俊宏委員>**

一巡目の発言に若干補足したいのですが、資料2-2の5ページに関連して、先ほど「女性の転出が続く都市は衰退する」というイメージでコメントしましたが、この5ページにあるように「東京圏への若年女性の転出超過が拡大している」ということが、全てに亘ってネックになってくると思います。従いまして、女性が就職先を選ぶ際の選択肢となるような魅力ある企業の誘致や育成に加えて、女性が活躍できる職種の拡充につながる施策展開をお願いしたいと思います。

それに関連して、15ページ目に「女性起業家の事業拡大を支援」という表現を書き込んでいただいております。大変有り難いと思います。ただし、愛知県はスタートアップについては後発のポジションですので、グローバルに展開する大手企業を巻き込みながら本県独自の支援モデルを構築していただきたいですし、また地元大学との連携強化を含めた展開をお願いしたいと思います。

それから、二点目は18ページの事業承継に関してです。先ほど、大竹委員をはじめ数名の委員の方から事業承継に関するコメントがありました。技術力はあるけれども事業承継に悩む中小企業に対し、投資を行うという観点では、例えば、新潟県では官民ファンドを創設しています。本県でも、女性や若者とのマッチング支援や、スタートアップへの引き継ぎが可能なケースも想定されると思いますので、将来的にはそうした働きかけも必要になってくると思います。

最後に、一点確認なのですが42ページ目に、女性の活躍促進の下に「気運の醸成」との記載があります。雰囲気づくりに留めるということであえてこの漢字を使っているのかもしれませんが、機会とかチャンスといった意味での「機運」の方が通常の使用頻度は高いと思いますし、意味的にも近いのかなと思います。細かい点で恐縮ですが一度ご確認いただきたいと思います。

#### **<日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）>**

ありがとうございました。他に追加してご発言がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。

#### **<NPO法人アスクネット 白上昌子委員>**

お時間も少しあるということで、追加で意見を述べさせていただきたいと思っております。

先日、仙台のイノベーションセンターというところに伺いました。東北の震災以降、カタール政府からの支援を受け、事業を起こす人間をどのように育ててい

こうということで、随分前につくられたセンターになります。先ほど、女性の起業や、スタートアップという言葉が出てきましたので、安定した経済基盤の中で、恵まれた環境にある愛知県ではあるのですが、イノベーションを創出していく人材を育てていくにはどうしたら良いのかということ、一つ特徴的な取組として、小学生から社会人まで、イノベーターを育てていくといったプログラムがあります。それが大変ユニークだなと思いました。非常に大変な状況から、事業を起こす人間を育てて行くにはどのようにすればいいのか、そういった危機感、問題意識から生じたプログラムとなっております。

私自身、全国、色々なキャリア教育を見てきて、人口の流出が盛んな地域ほど、こういったイノベーターをどのように育てていくのかといったところに注力していると思います。学校教育の現場で起業家教育、企業を興すだけでなく、実際、会社の中で事業を興していく人間を育てていく必要があります。そういった地域のニーズを、どのように学校教育の中に含めていくのか、今回の指標としてはインターンシップということがあるのですが、職業観、勤労観の醸成といったところだけではなくて、主体性という言葉で先ほど表現させていただきましたが、いかに事業を起こす人材を育てていくのかといったところが、この地域は自動車産業に支えられた恵まれた地域ではありますが、非常に重要なことであると思います。今後どのような産業になっていくのかは分かりませんので、先ほどもお話がありましたとおり、やはり新しい発想ができるような人間を育てていくような施策が必要と思います。

### ＜日本福祉大学 後藤澄江委員（座長）＞

ありがとうございました。他の皆様はよろしかったでしょうか。

今日まで3回にわたって、皆様には熱心にご発言いただいて、私も勉強させていただき会議になっております。全てをまとめることはできませんが、人口ビジョンについては、「ケース②」を使ったかなり意欲的な見通しを立てていただいております。それをどうやって実現するかといったところでございますが、出生率の問題もあれば、この地域は社会増を維持しており、それをどう維持していくのかということもあると思います。1990年代の終わりくらいに、県の少子化対策の仕事に関わらせていただいた時に、その頃の愛知県の人口は、600万人台で、愛知県は700万人に到達する前に減少傾向に入っていくだろうと言われておりました。それから2000年に入ると、700万人を突破して、さらに伸びていくといった状況があります。そういうことを考えると、この意欲的な展望もどこかで実現するのといった思いもあります。

その一方で、合計特殊出生率がなかなか上がらない中で、1.8まで上昇させることは、かなり厳しいかなと思いますが、外国籍の方が入ってまいりますと、今

回の人口の展望は、日本人と外国人の方を分けていないということですが、外国の方のほうが、出生率が高いということもあります。世界を見ますと、西ドイツと東ドイツとが統合して一旦低下後、外国人の高い出生率によって全体の出生率が伸びていったというように、新しいフェーズとして期待できるところもあります。そうした中で、外国人の子供達の教育や、地域への包摂といったところが大事になると思います。それを含め、人口ビジョンの数値というのは意欲的な数値を掲げていると思います。目標は高い方が良くと思いますが、それを実現するのは大変ですので、今が重要な時期なのかなと思います。

今の話にも関係あるのですが、戸田委員から、オリンピック後の話がありました。オリンピックが終わって、何もビジョンがなかったということではなく、どのような方向に持っていくのかといったところが、「まち・ひと・しごと」どれを取っても非常に重要であると思いながら、お聴きしていたところでございます。

また、この会議で、産業界の委員のお話を聞くと、人材の承継、ビジネスモデルの承継についても、新しい時代を迎え、厳しくも、やりがいのある時期を迎えていると思います。どのように承継をするかというところが、今回の戦略において非常に重要になると思います。

先ほど、「人口ビジョン」で、700万人を維持するという話をしましたが、今日の議論を踏まえると、数も大事だけれども、その中で一人ひとりがどのような人になっていくのかというところで、子どもたちがどういう思いを抱き、日々楽しみながら、この地域に暮らし、そして、しごとの面でも新しいこの地域のために働くという、どんなビジョンを持っていくのか、どのように人を育成し、定着させ、他の地域からこの地域に流入していただくというような、そういうことを考えていかななくてはいけないという話をお聞きして、改めて考えていたところでございます。色々なところで人材不足、こういうことをやりたいということを描くことはできるが、実際にそれを担っていただく人がいないとできないわけでございます。その一つが、この地域の魅力ということであると思います。成長戦略のための人材と言うこともあれば、地域においては、多くの人たちが地域活動であり、いろんな意味でボランティアや、地域の相互扶助、そういったところで担っていただく人たち、両方必要だと思えます。この両方を考えて、人づくりや暮らしづくりを進めていかなければならないと思います。改めて事務局の方では見直していただいて、そういった点が織り込まれているか、検討していただきたいと思えます。

今日はKPIについては国の方から、若干発言が出ました。もし、皆様の方で意見等がございましたら、事務局の方に出していただけたらと思います。最後に、カタカナの文字とか新しい言葉というのが多いのですけれども、その点につい

ては説明を加えていただきたいということを最後にお願いしたいと思います。

本当に熱心に議論いただきましてありがとうございました。事務局には、本日の意見を踏まえて、引き続き総合戦略の策定作業に取り組んでいただくことをお願いします。それでは、これをもちまして、事務局に進行をお返ししたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

### ＜加藤愛知県副知事＞

本日も、長時間、ご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。

これまで、3回にわたり、それぞれのお立場から、様々なご助言を賜りまして心から御礼申し上げたいと思います。この会議でいただきましたご意見につきましては、また、事務局で精査をさせていただき、しっかりと戦略の中で取り組んでまいりたいと考えております。

また、この戦略をつくれれば終わりと言うことではございません。この戦略に基づいて、様々な取組を皆様と一緒に、お力添えをいただきながら、進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

本当に、今日まで、3回の会議にご参画をいただきまして、ありがとうございました。

### ＜事務局＞

ありがとうございました。

委員の皆様には、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。なお、今後、本日いただきました意見と、今後、実施しますパブリック・コメントの結果を踏まえ、3月中に、第2期「人口ビジョン」・「総合戦略」を策定してまいります。

これをもちまして、第3回「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を終了とさせていただきます。